

# 南極OB会 会報

No. 38

発行 南極 OB 会  
会長 国分 征  
編集 広報委員会

## 今号の主な内容

- 第 60 次越冬隊からのミッドウィンター祭メッセージ
- 2019 年（令和元年）度南極 OB 会総会・ミッドウィンター祭
  - 第 28 回・第 29 回「南極の歴史」講話会
    - 支部便り④高知支部、⑤東海支部
  - 話題：S-58 型 シコルスキー見学会、南極みやげの小石の話
- 南極関連情報 ○隊次報告（11 次、24 次）○追悼「ど～もど～も」の小林先生を偲んで
  - 会員の広場（オリジナルカレンダー2020 年版、南極 OB 会主催第 61 次隊壮行会、会員の皆さまから 他）

## 南極 OB 会会長国分 征先生 ならびに南極 OB 会の皆さま

早々にミッドウィンターの  
激励メッセージをいただきあ  
りありがとうございました。

去る 2 月の越冬交代以降、  
各種観測・設営項目を引き継  
ぎ、幸いこれまで大過なく基  
地運営にあたっています。隊  
員の健康面にも特段の問題な  
どは無く、日々、元気に活動し  
ております。

無事、ミッドウィンターを  
迎えることができましたのも、  
南極 OB の皆さまがこれま  
でに積み上げてこられたもの  
あつての賜物と存じます。

今回のグリーティングカー  
ドは、60 次で最後となる予定  
の気象棟と、その右隣にあつ  
て移転場所となる基本観測棟  
を背景にして撮影いたしました。  
OB の皆様には思い出深い  
場所と思います。来る 61 次夏  
作業において、気象棟は長い



歴史に終止符を打ち、解体されることとなっています。

60次越冬隊は、本日21日の前夜祭を皮切りに、ミッドウィンター祭を開催します。少々荒天傾向で、後半は屋外活動に制約がありそうな予報となっていますが、これも思い出となるものと思います。

OB会の皆さまにおかれましても、ミッドウィンター祭を大いにお楽しみください。今後も引き続き、ご支援よろしく願いいたします。

第60次南極地域観測隊越冬隊  
越冬隊長 堤 雅基  
隊員一同

## 2019年（令和元年）度南極OB会総会報告

2019年（令和元年）6月22日（土）、南極OB会総会が明治大学リバティタワー（1096教室、9階）において、15時45分より16時45分まで開催された。開会に先立ち、神田運営委員長より2019年度に連絡があった会員、会友の物故者24名が紹介され、故人の冥福を祈り、黙とうが捧げられた。続いて、南極OB会国分征会長より、挨拶があった。会則第11条に沿って、出席会員の中から議長に滝沢隆俊氏（16s）を選出、議事進行に入った。



総会冒頭で挨拶する国分征会長

### 1. 活動報告

神田運営委員長より1年間の運営委員会の組織、役割、活動の概要が報告された。続いて、柴田広報委員長より会報34～36号が発行され、ホームページの更新があったことが報告された。里見南極教室委員長からは4回の南極教室に講師を派遣したことが報告された。とくに、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)で企画された埼玉県立春日部高校の講演では1300人の参加があり、盛況であった。野元堀アーカイブ委員長より南極OB会のアーカイブズの流れが説明され、主な収集物について紹介があった。本年度は第22次隊の奥村睦氏、第1,2,3次隊の小玉正弘氏の家族より貴重な資料提供があった。

「南極の歴史」講話会担当の渡辺委員より、2018年度に第26～28回の講演実施が報告された。テーマは南極観測60周年記念講演—越冬生活で語る南極観測60年—であった。その他、神田委員長より、「宗谷」、「初代しらせ」での説明員等のボランティア活動、南極OB会アマチュア無線クラブ(JARL南極局8J1RL)によるハムフェア、子供の日の特別運用の実施について紹介された。

これをもって報告事項を終了した。



議長を務めていただいた滝沢隆俊氏

### 2. 審議事項

田中会計担当委員より、2018年度決算（収支決算）の報告（資料1）、および五十嵐正文氏による会計監査報告（資料2）があった。審議の結果、決算報告が承認された。この決

算報告の承認を受けて、運営委員長より 2019 年度の活動計画案が提案された。審議の結果、活動計画案が承認された。続いて、会計担当委員より、2019 年度予算（収支計画）案の報告があった（資料 3）。審議の結果、予算案が承認された。

これをもって審議事項を終了した。

南極OB会 2018年度収支決算(案) 2019年3月31日 (単位:円)

取入	予算	決算	支出	予算	決算
前年度繰越金	1,577,967				
前年度未払金	1,096,155				
差引繰越金	481,812				
通信費 (926人)	2,850,000	2,883,000	振替口座手数料		88,220
振替口座振込 (949人)		2,796,000	会報費	1,200,000	1,720,184
郵便		61,000	印刷費		1,126,161
その他郵便 (2人)		5,000	郵送費		542,841
受取利息		11	送金手数料		49,680
未記帳入金(寄付扱い)		4,280	事務室運営費	1,400,000	929,060
			賃賃料		588,740
			送金手数料		3,024
			電料代		31,533
			郵送費		3,682
			事務作業費		300,000
			雑費		1,081
			交通費	220,000	199,520
			アーカイブ 運賃		5,811
			交際費 オーラ参加費	30,000	16,000
総会・社行会等参加費	500,000	521,000	総会・社行会等経費	500,000	596,331
総会・ミッドウィンター祭		162,000	総会・ミッドウィンター祭		168,128
社行会		280,000	社行会		232,745
歴史観望会		80,000	歴史観望会		95,458
収入合計	3,350,000	3,408,291	支出合計	3,350,000	3,555,126
			収入合計-支出合計	0	-146,835
			繰越金		334,967

資料 1 2018 年度収支決算

### 3. 南極観測 60 周年記念継続事業

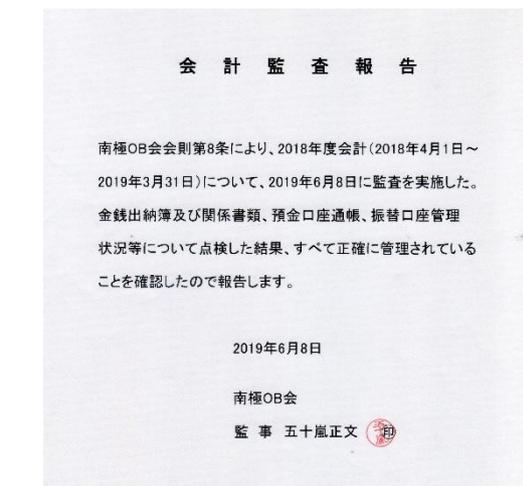
渡辺企画委員長（南極観測 60 周年記念継続事業委員長）より 2018 年度の南極観測 60 周年記念事業の一環として計画された記念出版事業について報告があった。南極観測トピックスが、南極読本の改訂版（南極 OB 会編集委員会編）として編集され、2019 年度に出版される見込みであることが報告された。

### 4. 地方組織の活動

山岸委員より 2019 年度の支部組織の活動状況について報告があった。現在、18 支部が編成されているが、その中で、最近再編された阪奈和支部（支部長吉田勝）、高知支部（支部長大野正夫）、京都支部（支部長東敏博）、兵庫支部（支部長林原勝美）、岡山支部（幹事長五百旗頭健吾）の紹介があった。

## 2019 年 ミッドウィンター祭

2019 年（令和元年）度のミッドウィンター祭は明治大学リバティタワー 9 階で「南極の歴史」講話会、総会が終了した後、会場を移動して、17 時より 23 階サロン「燦」で開催された。都内を一望できる素晴らしい会場であった。ミッドウィンター祭の懇談会は会場



資料 2 2018 年度会計監査報告

南極OB会 2019年度収支予算(案) (単位:円)

取入	予算	前年度実績	支出	予算	前年度実績
前年度繰越金	334,967				
通信費 (985人)	2,855,000	2,883,000	振替口座手数料	86,000	88,220
前年実績 926人			会報費	1,700,000	1,720,184
			印刷費		1,126,161
			郵送費		542,841
			送金手数料		49,680
			事務室運営費	936,000	929,060
			賃賃料		588,740
			送金手数料		3,024
			電料代		31,533
			郵送費		3,682
			事務作業費		300,000
			雑費		1,081
			交通費	200,000	199,520
			アーカイブ	10,000	5,811
			交際費 (慶弔費含む)	20,000	16,000
総会・社行会等参加費	500,000	521,000	総会・社行会等経費	500,000	596,331
収入合計	3,455,000	3,404,000	支出合計	3,455,000	3,555,126
			収入合計-支出合計	0	-151,126
			繰越金		334,967

資料 3 2019 年度収支予算 (案)

### 5. 一般社団法人南極 OB 会関連報告

国分代表理事より、2018 年度の（一社）南極 OB 会活動概要が報告され、続いて、庶務担当の田中理事より 2018 年度の決算報告、2019 年度の事業計画の概要が報告された。

以上、滝沢議長の議事進行により、活動報告、審議事項の全ての審議を終え、総会は閉会となった。

(神田啓史)

提供にご尽力をいただいた明治大学商学部教授の森永由紀 (29s) 氏が司会進行を担当した。南極 OB 会の国分会長の挨拶に続き、中村卓司国立極地研究所所長 (52s) よりお祝いの挨拶があった。引き続き、吉田栄夫日本極地研究振興会理事長 (2s) に祝辞、乾杯の音頭を取っていただき、歓談となった。歓談の後、

真木太一氏 (11w)、福井徹郎氏 (12w) の祝辞、地方支部から多賀正昭氏 (8w)、オーロラ会から大木淳氏による活動報告があり、大いに盛り上がった。司会の森永氏より第 60 次

隊の堤 雅基越冬隊長他隊員より届いた祝電とグリーティングポスターの紹介があった。竹内貞男氏 (10s) の中締めで閉会となった。(神田啓史)



2019年 ミッドウィンター祭に参加の皆さん

## 第 28 回「南極の歴史」講話会の概要

(2019年3月9日(土) 14:00~16:00 日本大学理工学部1号館133教室)

第 28 回「南極の歴史」講話会は演題Ⅰ「みずほ基地での越冬」、講師 高橋修平 (23 次冬)、演題Ⅱ「「宗谷時代」から「ふじ」の時代へ」、講師 古田逸子 (元文部省極地課)、長谷川慶子 (元極地研図書司書) の 2 テーマ、3 講師で開催された。前号では演題Ⅰについて紹介したが、今号は演題Ⅱについて概要を紹介する。

### 「ふじ」の時代について

元国立極地研究所図書室 (現南極 OB 会事務局) 長谷川慶子



講演する長谷川氏

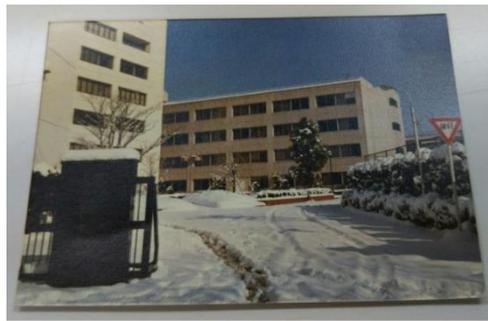
南極昭和基地に行ったことのない私が「ふじ」の時代を語るには、どうしたらよいか考えた。国内において南極観測を支えた国立極地研究所の発展の経緯を述べることにより「ふじ」の時代を語ることにした。「ふじ」の

時代は第 7~24 次(1965~1984)と 18 年間。まさにこの「ふじ」の時代が、国内および世界に通用する南極観測の研究機関に発展した時代。その時代の最中、1967 年私は極地研の前進である上野の国立科学博物館極地研究部に入る。その年は国立科学博物館開館 90 周年、その記念写真に村山氏、楠氏、松田氏らと共に写る。それ以来南極の仕事一筋。2007 年退職後は南極 OB 会の仕事にとひたすら南極と共に歩んだ 52 年間、現在に至る。

#### 1. 国立極地研究所設立の経緯

研究所が設立するまでには 20 年近い変遷の歴史がある。昭和 31 年 (1956) 国際地球観測年事業の一環として南極観測事業が開始

された。第1～6次（1956～1962）「宗谷」の時代だったが、船の老朽化のため中断に至った。昭和36年（1961）5月、日本学術会議が今後の南極観測によって得られた資料の整理、保管、研究等を行うため、庶務、観測、設営、資料の4課をもって構成する極地研究所の設置を政府に勧告した。政府もこれまでの臨時的体制では観測事業の継続が難しいとし、この勧告に答えて、昭和37年（1962）上野の国立科学博物館に「極地学課」を新設した。さらに昭和38年（1963）5月には日本学術会議はさらに恒常的事業を実施するにふさわしい中核的機関の設立を政府に勧告した。昭和41年（1966）極地学課を拡充し、「極地研究部」の設置に至る。昭和44年（1969）日本学術会議南極特別委員会が、さらなる充実した共同利用の性格を持つ研究所の設置を要望。昭和45年（1970）4月、これまでの極地研究部を改組し、国立科学博物館に「極地研究センター」が設立された。極地研究センターは昭和45年（1970）8月に板橋区加賀1-9-10に移転し、業務を続けてきた。昭和48年（1973）9月29日「国立極地研究所」がついに設立され、その施設設備や研究成果はすべて引き継がれ、同時に昭和基地も正式に国立極地研究所の付属施設となった。昭和55年（1980）9月29日には研究所施設が整備完成した。その翌年、珍しく雪の降り積もった研究所風景である。



雪の降積もった国立極地研究所（昭和56年）

（1957.2～）年3回定期刊行物。Memoirs of National Institute of Polar Research, Series A (Aeronomy), Series B (Meteorology), Series C (Earth Science), Series D (Oceanography), Series E (Biology and Medical Science), Series F (Logistics) 不定期刊行物。JARE Data Reports (Aurora, Ionosphere, Meteorology, Seismology, Glaciology), Antarctic Geological Map Series (1:250000), Catalog 等充実した出版体制で、私はこれらの出版事業に携わった。

### 3. 「ふじ」の時代の隊員動向について

第7～24次隊の隊員構成ほかについて表にまとめてみた。

当時の出港風景は晴海埠頭にて大勢の人達に見送られて12時に出港した。数多い出港

## 2. 国立極地研究所創立当初について

国立極地研究所所長には第1, 2, 3次観測隊長を務めた永田武氏が就任。次長にはそれまでの発展に力を注いだ、村山雅美氏であった。村山氏は9次隊の極点旅行を成功させた後は極地研究の発展のために力を注いだ。永田所長は常に研究者は英文で論文を書くことを勧め、日本南極観測隊の研究結果、報告、データ等を各雑誌への投稿に力を注いだ。当時の国立極地研究所出版物は南極資料（Antarctic Record）

表1 第7～24次観測隊「ふじ」の時代の隊の編成

変遷	隊次	年	総数	夏隊	オブザーバー	越冬隊	1回参加	経験合計	2回参加	3	4	5	6	7	8	平均年齢
科博(上野)	7	1965	40	22	7	18	24	16	7	4	1	4				34.68
極地研究部	8	1966	40	16	6	24	28	12	6	3	2		1			33.43
	9	1967	40	12	4	28	27	13	7	3		1	2			33.38
	10	1968	40	12	2	28	32	8	5	1	1	1				31.63
	11	1969	40	10	2	30	33	7	4	1	2					32.43
極地研センター	12	1970	40	11	0	29	33	7	4		1	1		1		32.15
科博(板橋)	13	1971	40	10	0	30	33	7	4	1		1		1		30.98
	14	1972	40	10	1	30	29	11	9	1	1					31.4
国立極地研	15	1973	40	10	2	30	29	11	9				1	1		31.33
	16	1974	40	10	3	30	36	4	2		2					31.48
	17	1975	40	11	3	29	34	6	5		1					31.83
	18	1976	40	10	4	30	33	7	2	4		1				31.03
	19	1977	40	10	4	30	33	7	4	1		1			1	32.13
	20	1978	42	12	13	30	34	8	6	1		1				32.12
	21	1979	43	10	1	33	33	10	7	2			1			32.77
	22	1980	44	10	0	34	36	8	4	2	1		1			30.82
	23	1981	44	10	2	34	34	10	6	2	1	1				33.61
	24	1982	45	10	5	35	31	14	9	4	1					33.91
			738	206	59	532	572	166	100	30	14	12	6	3	1	
オブザーバー: 報道(朝日,共同,NHK,TBS,共栄,映画社他); 船舶(防衛庁,船舶技研); 交換科学者; 本部委員; 環境庁																
平均年齢: 34歳代-1隊: 33歳代-4隊: 32歳代-5隊: 31歳代-6隊: 30歳代-2隊 計18隊																
極地研教官、技官は4回以上リビターが多く家族の協力が大きかった。																
1961年勧告: 1962年極地学課(上野)																
1970.8 極地研究センター(板橋へ移転)																
1973.9.29 国立極地研究所創立																
1980.9.29 極地研施設整備完成																
1974.11.3 所長文化勲章受章																
1980.11.28 海部俊樹, 中村弘海議員南極点へ																
1975-17次 所長昭和基地訪問																
1981.4.1 村山氏退官																
1978.9.29 南極観測20周年																
1981.12.11 「しらせ」進水																
20周年記念文部大臣表彰18名																
20周年記念文部大臣表彰18名																
20次隊 パラボラアンテナ建設																
世界で初の南極からのテレビ生中継(NHK13名)																

第7～24次観測隊「ふじ」の時代の隊の編成



皆で「ふじ」の見送り

の中、忘れられないのは 1970.11.25 の第 12 次隊の出港風景。三島由紀夫氏が陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地で割腹自殺を図ったため、ヘリコプターはその取材に行ってしまった事。翌日は出港風景が各紙に大きく掲載されておりました。

### 最後に

今回「南極の歴史」講話会で初めて「宗谷」と「ふじ」の時代について女性が話をする機会を設けて下さり、感謝しております。当時はどんなに切望しても女性は南極昭和基地に足を踏み入れることのできない時代であった。私の話したことは南極観測 50 周年を機に発行された各種の出版物に記載されていることがほとんどです。特に極地研ニュースは年 6

回発行されており、内容の深い記事が多くあり、とても参考になった。また、「ふじ」を運用した海上自衛隊では、昨年艦長だった松浦光利氏の死去に伴い「ふじ会」が解散され、「ふじ」の時代も遠くなったのでしょうか。しかし、南極観測船「ふじ」は現在も体験型歴史的資料として名古屋港ガーデンふ頭に係留され、皆様のお出でを待っています。最後に南極 OB 会がこれからも維持、発展していくために少しでも協力できればと思っています。

### 参考文献

極地研ニュース No.1～No. 50 (1974.8～1982.8) 国立極地研究所発行  
南極六年史 昭和 38 年 文部省発行  
南極二十五年史 昭和 57 年 文部省発行  
国立極地研究所 25 年の歩み 1998 年 9 月 国立極地研究所発行  
第 9 次南極観測隊の記録 ～忘れ残りの記～ 平成 30 年 2 月発行 非売品  
につぼん南極観測隊人間ドラマ 50 年 丸善 平成 18 年発行 絶版  
南極観測隊 (共著) 日本極地研究振興会発行 2006 年  
日本南極地域観測隊隊員名簿 (第 1 次隊～第 50 次隊) 2008 年版 極地研発行

## 第 29 回「南極の歴史」講話会の概要

(2019 年 6 月 22 日 (土) 14:30～15:30 明治大学リバティタワー 9 階 1096 教室)

第 29 回「南極の歴史」講話会は、南極 OB 会総会、ミッドウィンター祭と同時開催され、演題「これからの極地研究の方向」、講師青木輝夫 (29 次冬) の話題で開催された。概要を紹介する。

### 「これからの極地研究の方向」

青木輝夫 (29 次冬)

これからの極地研究の方向として、(1) 両極の研究課題として検討されている将来の研究構想、(2) グリーンランドおよび南極氷床の質量収支変動に関する研究について述べた。また、本講話会の時間の一部を使って、筆者の長年における懸案であった(3) 第 29 次あすか隕石探査隊クレバス事故について報告した。

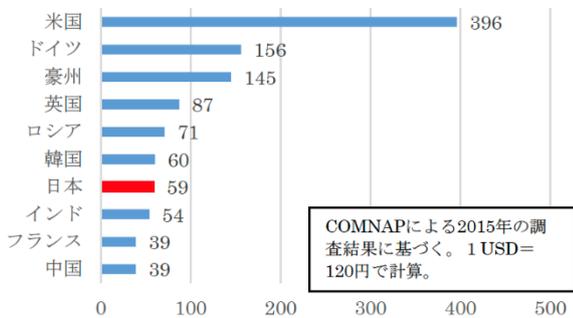
#### (1) 両極の研究課題として検討されている将来の研究構想

南極観測について、はじめに白石和行氏がまとめられた現在までの「南極観測の歩みと成果」について概観した。その中で初期の南極観測では「発見」や「初観測」といった成果が目立つが、近年南極予算が厳しくなる中、発見的成果だけではなく、納税者への成果の還元が求められている。極地研が最近まとめた「南極地域観測将来構想」の中間報告<sup>1)</sup>で



講演する青木輝夫氏

は、国家戦略としての地球規模課題解決と知のフロンティアの両軸で研究を進める方向が示されている。また、同中間報告では日本の南極観測関連年間予算は世界第7位で、その内訳は海上輸送費(2017-2018年)が大きく、総予算額の3/4を占めている。極地研では現在、今後の大型研究計画としてマスタープラン2020を取りまとめている。研究テーマは「氷床変動に起因する海水準上昇予測のための拠点観測」で、温室効果気体の効果的な削減ができなかった場合に大幅な海水準の上昇が予測されるという背景のもと、その予測精度向上のため、無人・遠隔技術を活用した極域研究拠点形成によるブレークスルーを目指すというものである。

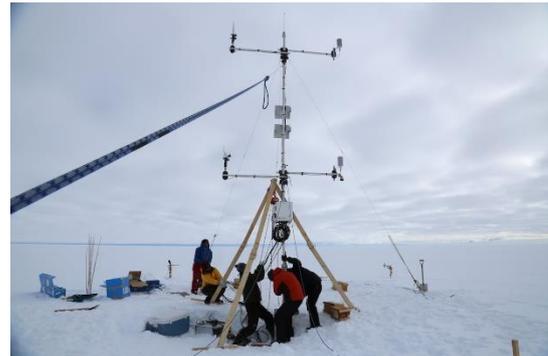


各国の南極観測関連年間予算額 (単位億円)

一方、北極観測では2011~2015年に日本初となる北極研究の総合プロジェクトGRENE北極気候変動研究事業「急変する北極気候システム及びその全球的な影響の総合的解明」が大気、海洋、雪氷、陸域の各圏における自然科学分野において実施された<sup>2)</sup>。さらに、後継の「北極域研究推進(ArCS)プロジェクト」(2015-2019年)では、自然科学に人文・社会科学分野を追加して実施されている。そして、現在、「将来の北極研究プロジェクト」の構想案が極地研、北大、JAMSTECの3機関の各北極センターから公開された。北極域は地球温暖化の影響が顕著に現れる領

域で、近年の気温上昇の速度は全球平均の2倍の速度で進行し、北極海の海水面積の急激な減少やグリーンランド氷床融解が顕著に観測されていることから、このような大型予算の獲得による総合的な観測が必要不可欠である。これに対応し、北極研環境究コンソーシアム(JCAR)では、北極研究の将来構想<sup>3)</sup>を作成している。

## (2) グリーンランドおよび南極氷床の質量収支変動に関する研究



グリーンランド氷床上 SIGMA-A サイト (標高 1490 m) における自動気象観測装置設置風景 (2013年7月24日)

グリーンランド氷床では1990年代後半より急激な質量損失が顕在化している。主な質量損失の原因は温暖化に伴う夏季涵養域における表面融解と冰山流出の両者が加速しているためである。特に、表面融解は2012年と2015年に顕著な融解が起こり、2012年には内陸の涵養域もほぼ全域の表面で融解を経験した。科研費で2011年から開始した現地観測や数値モデルによる質量収支の見積り、衛星データ解析による氷床表面状態の変化等について紹介した(例えば、青木ほか、2016)<sup>4)</sup>。一方、南極では現在のところグリーンランドに比べ質量損失はやや少ないが、今後温暖化の影響は南極氷床にも及ぶことが予想されている。このため、現在南極内陸域で実施している自動気象観測装置観測網の展開や数値モデルによる質量収支の見積りについて紹介した。これらは(1)の次期研究構想に繋がるものである。

## (3) 第29次あすか隕石探査隊クレバス事故

筆者はあすか基地越冬後、セールロンダーネ山地隕石探査隊に参加した。1989年1月13日に2件3名のクレバス転落事故が目前で発生し、救出作業を通じて本重大事故の当事者の一人となった。この事故の様子を時系



セールロンダーネ山地南東側雪原で深さ30mのクレバスに転落したSM501(1989年1月14日撮影)

列で写真を交えて報告した。なお、当時の状況は青木(2006)<sup>5)</sup>にも記したので、ご興味のある方はご覧頂きたい。この紙面をお借りして隕石探査隊長の故矢内桂三氏(9w, 15w, 20w, 29w、2018年逝去)と機械チーフの故米澤泰久氏(15w, 20w, 29w、2011年逝去)に心より哀悼の意を表します。

#### 参考文献

1) 南極観測将来構想タスクフォース, 2018: 南極地域観測将来構想 - 2034年に向けたサイエンスとビジョン - 中間報告, 情報・システム研究機構国立極地研究所,

([http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/science/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/10/31/1410538\\_6.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/10/31/1410538_6.pdf)), pp40.

2) 国立極地研究所, 2016: 急変する北極気候システム及びその全球的な影響の総合的解明, 情報・システム研究機構国立極地研究所, (<https://www.nipr.ac.jp/grene/doc/grene-seika-j3.pdf>), pp269.

3) 北極研環境究コンソーシアム, 2018: 北極環境研究の長期構想 - 増補改訂版 -, 北極研環境究コンソーシアム, (<https://www.jcar.org/documents/longterm20141215.pdf>), pp252.

4) 青木輝夫, 庭野匡思, 谷川朋範, 橋本明弘, 的場澄人, 杉山慎, 竹内望, 本山秀明, 永塚尚子, 植竹淳, 堀雅裕, 島田利元, 山口悟, 藤田耕史, 山崎哲秀, 2016: 北極域における積雪汚染及び雪氷微生物が急激な温暖化に及ぼす影響評価に関する研究(SIGMAプロジェクト)によるグリーンランド観測. 極地, 53, 34-40.

5) 青木輝夫, 2006, 「セールロンダーネクレバス事故-忘れられない隊長の言葉」(p.262-265), 南極観測隊(共著), 日本極地研究振興会, pp521.

## 連載 支部便り

### 支部便り ④ (高知支部)

#### 企画展「はるかな海をこえて南極観測隊」展の開催

高知みらい科学館(オーテピア5階)で、2019年8月6日より8月25日まで、主催: 南極OB会高知支部、共催: 高知みらい科学館・放送大学高知学習センターで上記のテ

マにより展示、講義とオーロラ上映が行われた。吉田栄夫先生の来高で、RKC高知放送のテレビ取材とトークショー(放送)がなされた。



国立極地研究所提供の写真パネルの展示



吉倉紳一氏提供の岩石標本



人気があったテントの展示と冬用防寒具と靴の試着



東野智瑞子氏の講義

この企画は、昨年 2018 年 7 月に高知県と高知市の総合施設（オーテピア）に高知みらい科学館（5 階）が開館して、子供から大人まで自然の不思議さや科学技術の面白さを知る機運が高まっていた。高知では南極の情報に触れる機会が少なく、日本南極地域観測隊の活動に関する展示は行われたことがなかった。高知みらい科学館の特別企画（7 月～9 月）が、「海を科学する」であったこともあり、展示会場の常設施設以外のスペースのなかで、科学館展示部門が準備を全面的に引き受けて南極観測隊展が開催された。オープニング講義には、59 次越冬隊員、東野智瑞子先生（大阪支部会員）による最新の情報を子供向けのわかりやすい講義と南極氷の音を聴く実験が実験室で行われた。この講義の広報や旅費などの必要経費は放送大学の助成を受けた。8 月 25 日の最終日の南極クラスは 59 次越冬隊員、

佐藤啓之先生（ミサワホーム）が行い、この経費は南極 OB 会の助成を受けた。国立極地研究所から、提供品や借用資料の協力を得た。特に借用データからプラネタリウムでのオーロラ上映は、今晚の高知の星座から南十字星、昭和基地の星座からオーロラへと 15 分間の映像が静かな音楽の流れで進み、素晴らしい学芸員の解説で観客を魅了させた。高知支部会員の吉倉紳一（岩石標本）、大野正夫（生物標本）や芝治也（装備）の展示物の提供、ミサワホームのウォークビューの借用があった。

テントと冬用防寒具と靴の試着に人気があり、絶えず子供達がテントに入っていた。高知での南極展は高知県民や子供達に夢を与えた。東野先生が、「南極に行きたい人は手上げて！」と言われた時、一斉にすべての子供達が、高く手を挙げた時には感動した。



来高された吉田榮夫先生へのインタビュー

高知支部支部長 大野正夫（16s、26s）

## 支部便り ④③ （東海支部）

### 令和元年 暑気払い

今年も、きつい暑さが各地を巡っているようですが、この東海地方も例外にもれず暑い日が 7 月中ごろから続いております。そんな暑い中、8 月 10 日（土）の午後、暑気払いの集まりが東海支部で持たれました。

2 代目の南極観測船「ふじ」が博物館として係留してある名古屋港を望む大きな通りに「華味理」というレストランがある。今回は、そこが会場になりました。雰囲気としては申し分のないところ。17 時きっかりから、岩坂支部長のあいさつに続いて出席者の自己紹介が始まりました。

南極観測隊員であった岩坂（当時名古屋大、

24 次）、神沢さん（当時極地研、26 次）、児島さん（名古屋大、54 次夏、56 次夏、58 次夏）、小塩さん（名古屋市科学館、56 次、58 次）に加えて、漫画やイラストで活躍中の角田さん



名古屋港に係留中の「ふじ」。南極 OB 会東海支部活動は、「ふじ」と連携しつなされることが多い。

(ペンネーム うみ)、「ふじ」の解説ボランティアをやっておられる竹村さんや幸田さん、名古屋みなと振興財団(「ふじ」の管理などをやっている組織)の加藤さんや山口さんなど出席者は多士済々。

小塩さんは、昨年から地元紙の中日新聞に「地球の端っこで考えた」と題するコラム欄を受け持っていて、南極をはじめ幅広い話題について健筆をふるっておられます。自身の自己紹介に続いて、制作の舞台裏の様子や苦勞を面白おかしく話してくれました。

また、岩坂はここ数年修業しているマジックのうち、小ぶりの集まりに適したカードを使ったものをご披露に及び、暑気払いの会に参加した者だけでなく、お店のおかみさんや料理長、大旦那、若旦那などが厨房の出入り口に立ち並んで見物と言う具合でした。

自己紹介が始まった頃は少々硬さもありましたが、マジックが終わる頃にはすっかりリラックスした雰囲気になり、制限時間をはるかに超えてお開きとなりました。

名古屋港には日本でも数少ない船の博物館として2代目の南極観測船「ふじ」が係留されており、南極OB会東海支部の活動とはいろいろな面で協力・協働しております。地元の社会人教育などでも、名古屋港や「ふじ」が教材や見学の対象施設として選ばれることがあると聞いており、次回にはこういった方面の方々にも声かけして参加いただき、南極OB会のこれからのありようを考えてみたいもんだと思いました。

2019年(令和元年) 8月13日

東海支部支部長 岩坂泰信(24w)

## 話 題

### S-58 型 シコルスキー見学会



昭和基地の S-58 型シコルスキー (201 号機)

2019年8月30日、宗谷時代(第3~6次)で活躍した S-58 型のシコルスキー(201号機)の見学会が行われました。201号機は、昭和基地へ最初に物資などの航空輸送を行ったヘリコプターで、上空からカラフト犬の“タロ”と“ジロ”を発見した話も有名です。

1962年の第6次南極観測終了後は、海上保安庁で海難救助、公害監視、災害救援などの海上保安業務で活躍し1973年に解役。その後は、国立科学博物館に移管され、上野でしばらく一般公開されていましたが、現在は展示されておらず、つくばの国立科学博物館の研究施設内にある専用の倉庫で大切に保管されています。

今回、南極観測当時、海上保安庁の航空科で整備を担当していた皆さまと、沢山の思い出が詰まったシコルスキーと再会させてもらいたいとお願いしたところ、今回は特別に(本当に特別に…)ということで、夢の再会を実現する事ができました。先方にご迷惑とならないよう、控えめな人数での見学会となりましたが、笑顔で当時を懐かしむ関係者の姿が印象的で、とても有意義な時間になったと実感しました。



最後に集合写真

なお国立科学博物館には、無理なお願いにも関わらず、大変貴重なお時間をいただいたことに本当に感謝いたします。

(会友 木村洋子)



## 南極みやげの小石の話

2019年2月9日の朝日新聞夕刊社会面に「四万十川に届いた『ごめんなさい』」という見出しの小さな記事が載った。高知県の四万十市観光協会に小さな小石が送られてきて、「川崎市在住」とあるだけの匿名の手紙に「昨年、四万十川に旅行に行った際、河原の小石をひとつ持ち帰ってしまいました。大変申し訳ありません。お手数ですがお戻しいただけませんでしょうか」とあった。

協会職員が橋から小石をそっと落としたり、ポチャンという水音が「お帰り」という声のように聞こえた、という話である。

それを読んだ私は、すぐ南極みやげの小石のことを思った。私は7次隊と47次隊に同行記者として行った人間だが、その40年間に変わったことのひとつに「南極みやげ」の話がある。

7次隊のときには、昭和基地周辺の小石を

たくさん拾ってきて、「南極みやげだ」と友人たちに配ったり、講演に行った学校に寄付したりして大変喜ばれた。観測船「ふじ」の乗組員のなかには、船のクレーンを使って巨大な岩石を持ち帰った人までいた。

それが、1991年の南極条約の改定期に環境保全が厳しくなって、日本隊ではお土産の小石まで持ち帰りを禁じる措置をとった。したがって47次隊のときは、南極みやげは氷山の氷しかなかった。

私は、わが家の玄関に飾ってある南極みやげの小石に、「おい、南極へ帰りたいか」と声をかけてみた。すると、小石が「いや、ここにおいて『南極の石だ』とみんなに褒められている方がいい」と答えたように聞こえた。私は、そっと小石の頭を撫でてやった。

柴田鉄治（7次夏、47次夏）

# 南極関連情報

### 第61次隊員決定

令和元年6月21日（金曜日）に開催された第154回南極地域観測統合推進本部総会において、第60次南極地域観測隊員等65名が決定した。

なお、既に決定済みの青木茂隊長（兼夏隊長）、

青山雄一副隊長（兼越冬隊長）、熊谷宏靖副隊長（兼夏副隊長）を加え、第61次南極地域観測隊は総勢71名（夏隊41名、越冬隊30名）で編成される。また、夏隊同行者は23名で編成予定である。

## 連載「帰国後の各隊の動き」

### 第11次南極地域観測隊50周年記念会、熱海で盛大に開催

今年は、第11次隊が観測船「ふじ」で1969年11月25日に晴海埠頭を出港して50年目に当たる。記念会が2019年7月10～11日に熱海温泉で開催された。前年、50周年プロジェクト委員会（森本正市委員長）を立ち上げて、30年来利用している新宿の日本料理店・三平で複数回の打ち合わせ後、場所、日程を決めて実行された。

隊員参加者（越冬隊50音順：芦田成生・金子信吾・鎌田寛美・里見穂・白壁弘保・福嶋

泰夫・真木太一・森本正市・渡辺興亜、夏隊の家形至亮氏）は10名であった。事前予約の3名（大野勇太・上橋宏・福西浩氏）は都合で取り止め、当日、石本恵生氏のご息女の急病で取り止めになった。

さて、論議の中で、すでに亡くなった方も多くなり、危惧するところであったが、新しい企画として奥さん同伴の提案があり、参加予定者の調査を経た後、女性参加者は3組（芦田・真木・渡辺婦人）+故人坂本好吉氏（調理）婦



熱海・玉の湯ホテルの宴会場にて

人の参加の下、参加者は計 14 名で実行された。

熱海には快速アクティーで適当な駅で列車に乗り込み、車内での事前集会で玉の湯ホテルに早く行く人、各自ホテルに駆け付ける人、等々で集まり、多くの人は温泉に浸かり宴会場に集まったが、集合予定時刻が近づいても、福嶋ドクターが未着で携帯通じず心配したが、ギリギリ開会時間に間に合い全員集合し安堵した。実は電車を乗り過ごしたそうであった。

さて、宴会のスタートを切ったのは、万年、最も若い白壁弘保進行役であり、冒頭に越冬隊 30 名、夏隊 10 名の内、全く驚きであるが 11 名にも及んでいる物故者（越冬隊：松田達郎・城 功・清水 弘・岡本義久・石田晶啓・坂本好吉・小田哲夫、夏隊：背戸義郎・日高照明・松岡数男・高野共平氏）が読み上げられ、参加者全員で故人に黙祷を捧げた後、欠席者の近況紹介があった。

そして乾杯の音頭・しばし歓談の後、各自の昔話・近況報告があった。最も印象に残ったのは、通信長の話しで、通信の秘密遵守の下、当時の電報の扱いで、越冬中に苦難に陥っている時に家族等の不幸の電報の伝達に関して、今、渡すと本人が持たないのではないかと懸念された時は松田達郎隊長に一任していたことを聞かされ、隊長の任務の重さを改めて感じた次第であった。

もう一つは、夏季に東・西オングル島の間の水が融け、その狭い海峡に張ったロープを手

繰って移動する白いスタイロフォーム（長さ 2 m 幅 1 m 厚さ 0.5 m）に乗った数人が海に落ち入水した話しを聞いた。貴重なカメラは故障して回復不能だったそうだ。また、懇親会では記念写真撮影と共に里見氏による「十一次南極の三十人」（第 11 次隊のアルバム）ビデオの披露があり、50 年前の越冬生活を懐かしんだ。さらには近著『75 歳・心臓身障者の日本百名山・百高山単独行』海風社（真木）を回覧し、長老の森本氏に贈呈された。宴会場での一次会は終わり、引き続き皆で一室に集まり半世紀前から近況までを時間を忘れて話し懐かしんだ。

別途「第 11 次南極地域観測隊の映像」と「南極に生きる第 11 次南極観測隊の記録」（公式記録映像）も見られた。



玉の湯ホテル前海浜公園での記念写真

翌日はホテル前公園で記念写真を撮った後、10 人は 10:00 発の遊覧船で初島の渡り、島内の海岸、樹木、灯台等を見た。途中、海岸植生・草木を見て散策し、忘れ掛けた植物名を思い出し合い、また大野氏の不参加寄付の一部を利用して海産料理の昼食を楽しみ、皆満足して 13:25 に乗り熱海に戻った。次回開催は数年に一度や来年もとの意見もあり、再会を願って、熱海栈橋で名残惜しくも 50 年会を解散した。その後ロープウェイで熱海城に行った人もいた。

（真木太一・白壁弘保）

## 第 24 次隊ミニ同窓会 in 横浜 盛大に開催

24 次隊は令和元年 6 月、梅雨の間の晴間をぬって横浜中華街でミニ同窓会を開催した。24 次隊の幹事会は定例として池袋周辺で行っているが、今回は神奈川居住者の便宜を図るとのことから、横浜での開催が計画された。また、せっかく横浜での開催であれば、同窓

会に格上げし、ミニ同窓会として出来るだけ多くの参加を募ろうということになった。6 月 16 日の参加者は横浜在住者 2 名、東京から 6 名、埼玉から 2 名、茨城 1 名、はるか山形から 1 名、計 11 名が参加した。

今回の開催に当たっては、代表幹事の久



令和最初の 24 次隊同窓会の参加者

保ドクターにより 24 次隊メンバーの参加日程の調整が行われ、6 月 16 日午後の開催が決定した。また横浜での開催ということで、横浜在住の中山が今回開催の世話役となり会場探しを行った。なお、24 次隊の多くがすでに高齢であり、会場の条件として、駅から歩く距離が短いこと、料理が美味くて費用が安いこと、午後の早い時間で飲み放題、雰囲気の良い店であること。以上が横浜開催の条件である。ただ、条件に合う午後の営業で飲み放題の店はなかなかなく、横浜なら中華街との声もあって、24 次隊報道のオオマキ（共同通信・牧野）さん推薦の店（横浜中華街加賀警察署前の四五六菜館別館）で、午後 1 時半からの開催となった。

当日は梅雨の合間で、横浜は猛暑が予想された。参加者はそれぞれ勝手に会場集合となったが、東京郊外から参加の調理担当の中津川さんは、横浜は久しぶりとのこと、みなとみらい駅から中華街と反対の海に向かい迷子となった。また埼玉与野から参加の石ヤン（石沢さん）は、京浜東北線一本でユッタリ時間をかけすぎて遅刻、余裕の 24 次



旺盛な食欲・溢れる話題

隊の 36 年前が思い出される「(全員) 集合」であった。

ミニ同窓会は、時間制限飲み放題のルールにしたがい、遅れる参加者を無視して、アルコールを注文、まずは各人勝手に喉を潤してから、その後遅刻者が表れるたびの乾杯とあいなった。会場となった部屋は、世話役の予約指定（店一番のきれいな部屋）に反して、窓のない薄暗い部屋で、皆の期待を裏切るものであったが、中華街では多く見られる愛想のない従業員は、皆の予想通りの対応であった。

久しぶりに顔を会わせた参加者は、接客係の無愛想や薄暗い部屋にも何のその、各自マイペース（ハイペース）で、アルコールと料理を口に運び、老齡とは思えない、さながら観測隊現役時の旺盛な飲食であった。久しぶりに会った参加者の会話も途切れることはなく、窓のない部屋から外の廊下へ響き渡る大声が絶えることがない賑やかさであった。会話は 24 次観測隊越冬時のセールロンダーネ旅行隊と旅行支援隊の食事情の遺恨、セールロン隊の南やまとでのクレバス落車時の思い出にまでさかのぼり話はつきなかった。

また、今年度の同窓会を 24 次隊の前隊長、雪氷の成田さん、小笠原ドクターのいる北海道へ遠征する計画が検討された。この報告が OB 会誌に掲載される頃には 24 次隊は北海道で気炎を上げている予定である。

（中山記）

## 追悼

### 「ど～もど～も」の小林先生を偲んで

いつもニコニコして、万事「ど～もど～も」の一言で周囲を和ませてくれた小林昭男ド

クターが、平成 31 年（2019 年）3 月 29 日に亡くなられた。享年 91。

先生は慈恵医大卒業で、同大外科・慶応大医学部・東邦医大外科を経て、念願だった南極観測船「宗谷」の医務官に就任され、村山隊長率いる第5次南極観測隊に同行された。

次いで第9次越冬隊に参加され、「極点旅行」隊員として活躍された。基地では勿論のこと極点旅行でも、隊員の健康管理や生活支援、定常観測、研究観測に尽力された。

村山雅美隊長の片腕として信頼厚く、国内での極点旅行準備から出発前の昭和基地での諸々の作業で隊長を支援された。極点旅行の成功は小林先生の功績大と言える。

一方旅行出発前の準備が多忙を極める中、基地での休日には、隊長と率先してスケートやスキー、氷上運動会、ビリヤードなど主催して、ご自分で楽しむと同時に、積極的に隊員の精神的安寧を図られていたことは懐かしい思い出だ。

私が先生に初めてお会いしたのはJARE9参加が決定した時だった。10歳年少の私に対して出国前から、医学的指導は勿論のこと、南極ベテランとして数多くの生活知識を伝授して頂いた。

昭和基地に着いて、ラングホブデ沿海で行った生物担当の福井義夫隊員との観測隊初の南極海潜水調査では、未知の事故に備えて心強いサポートをして頂き、安心して潜水できたことを思い出す。

また極点旅行出発間もなく起こった遠藤八十一隊員の大怪我では、昭和基地に送還された遠藤隊員の爾後の治療について、内科医の私に事細かな、的確な外科的治療方針を指示されて旅行にとんぼ返りされた。雪上車から無線で指示を頂きながら治療を続けた結果、帰国後理想的な骨折治癒とのお墨付きを頂いたのは、偏に小林先生ご指



昭和基地「バー」にて

導の賜と感謝している。

更に、極点旅行中の博学のエピソードとして通信の西部隊員が述懐している。帰途の昭和基地近くになって、当時の坂田道太文部大臣からのとても受信し難い電報を受けた。その日の電報報告会でのこと「・・・やっと受信した電文を私は声を出して、たどたどしく読み始めたのである。すると一緒にいた小林ドクターが、私が読まんとする先へ先へ声を出すではないか。これには驚いた。ドクター曰く、これは徒然草の一節で『高名の木登り』だよ。この時医者 of 学問は、大したもんだナ、と感心と尊敬で自分がとても小さく感じたのである」。

村山隊長亡き後も JARE9 メンバーをまとめて東北旅行や山行、高木邸での筍会や芋煮会等諸々リードして頂いた。南極倶楽部にも積極的に参加され、第3土曜日には一番に「菜の家」に現れて皆と親交を持たれていたのはご存じのとおり。

しかし最近では体調を崩されて、久しくお会いできなかったのは残念だった。

ご冥福をお祈り致します。 合掌

(9次冬 大久保嘉明)



訃報 ご遺族や会員の方からお知らせ頂きました。謹んでお悔やみ申し上げます。

(敬称略)

お名前	隊次	部門	逝去月	享年	お名前	隊次	部門	逝去月	享年
井上正鉄	27w	生物	R01.5	70	小澤明	4.5.8	宗谷	R01.6	91
上田和廣	9,10次隊	「ふじ」	H30.11	—	木村幸吉	13s	測地	R01.6	82
岸本勝	8s(obs)	NHK報道	H31.4	89	須田友重	9w	超高層	H31.1	93

## 南極 OB 会オリジナルカレンダー2020年版 販売します (同封申込用紙参照)

南極 OB 会 (以下、OB 会) では 2009 年のカレンダーを (公財) 日本極地研究振興会 (以下、振興会) の協力を得て、いわゆる「南極カレンダー」に OB 会のロゴを付し、「南極 OB 会名入りカレンダー」として皆様に販売すると共に、2014 年からは、2015 年のカレンダーとして、見開き A3 サイズの新カレンダーを「南極 OB 会オリジナルカレンダー」として制作販売してきました。



近年、郵送費の値上げ等により会員の皆さんにお届けするのにコストが増加したことなどがあり、運営委員会等でこの2種類のカレンダーについての取り扱いを検討してまいりました。

結論は、2020年カレンダー制作を機に、見開き A3 サイズのカレンダーを製作する事を選択し、皆さんにお届けしようという事になりました。

新たな「南極 OB 会オリジナルカレンダー」の内容については、同封の「申込用紙」の要領により注文をお願いします。40 年以上に亘り南極観測隊員や皆様に人気の振興会の「南極カレンダー」については、頒布作業人員の確保が困難なことから、誠に恐縮ですが、公益財団法人日本極地研究振興会 ( <http://kyokuchi.or.jp/> ) のホームページを通じて直接お申し込みくださるか、電話 042-512-5357、FAX 042-512-5358 にてお問い合わせをお願いします。

## 南極 OB 会 第 61 次日本南極地域観測隊壮行会のご案内 (同封案内状参照)

1. 日 時： 2019 年 11 月 1 日 (金) 受付 18 : 00 より
2. 場 所： レストラン「アラスカ」パレスサイド店  
千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F 電話：03 - 3216 - 2797
3. 内 容： 講演、第 61 次南極観測隊壮行会
4. 会 費： ￥7,000 円 (61 次隊員、同行者等、しらせ乗員は￥2,000 円)
5. 申込方法： はがき、電話、FAX、メール。いずれでも結構です。  
(10 月 31 日締め切り、但し当日申し込み・参加も可能ですが、事前に参加の旨連絡いただくと事務処理上大変助かります。)
6. 申込場所： 南極 OB 会事務局 (担当 長谷川慶子 水、金の午後在室)

## 南極 OB 会アーカイブ事業報告

南極 OB 会では、南極観測の歴史に関する貴重な記録を収集し保管するアーカイブ事業を行っております。

元観測隊員等の皆様が保管されている南極観測に関する諸資料 (書類、記録ノート、写真、スライド、アルバム、衣類などの装備品、グッズ等) がありましたら、南極 OB 会で受け入れさせていただき、国立極地研究所と連携し、保管あるいは展示等の有効活用に使いたいと考えております。受け入れは随時行っておりますので、南極 OB 会にお気軽にご相談ください。

なお、受け入れたアーカイブ資料につきましては、本会報にて報告させていただきます。

2018 年 8 月 8 日付けで、22 次越冬隊 (航空) 奥村 睦氏から、スライド写真 790 枚、第 22 次越冬隊新聞「トピックス 22」(製本品) を、2019 年 3 月 20 日付けで 1 次、2 次、6 次夏隊 (宇宙線、地球物理) 小玉正弘氏から、1 次、6 次隊白黒写真アルバム、1 次隊家族新聞、1 次、2 次隊南極新聞、3 次隊郵便スタンプ押印絵はがき、2 次、6 次観測隊記録 DVD、各種研究ノート及びデータ類を寄贈していただきました。

\*\*\* 【編集の終りに】 \*\*\*

### ○通信費納入のお願い

会報を皆さまにお届けします。今年度分を未納の方には念のため、通信費の振込用紙も同封

しました。年度通信費は、3,000 円です。郵便振替の手数料は当方負担です。同封の振替用紙にて、窓口支払では 200 円ですが、ATM（現金受払器）での支払では 150 円と値上がりです。振替手数料は当方負担のため、経費削減にご協力いただけますようお願いいたします。また、未納分のまとめ払いも大歓迎します。

## ○ 会員の皆様から

会員の皆様、通信費の払込みをありがとうございます。9 月 18 日現在で 671 名になりました。年間目標は 950 名以上です。到達迄にはまだまだハードルは高いです。会員皆様のご協力をお願いするばかりです。通信欄には住所変更、勤務先変更、メールアドレス、電話番号、携帯番号等記載いただきとても助かっています。ご協力に感謝しています。また、メールアドレス新規登録にはテストメールを発信しています。まだの方は登録をお願いします。

紙面の都合もありますが、なるべく皆様からの近況は掲載していきたいと思っております。どんどんお寄せ下さい。会員の皆様から寄せられた近況をお知らせします。(事務局 長谷川慶子)

○現在、第 60 次隊にて越冬中です(54w, 57w, 60w, 虫明一彦)

○会社退職したのでメールアドレス変更します(19w, 中山卓)

○お世話になります(19w, 奥田禎志 ; 19w, 安田昌弘)

○36 次、またお会いしたいです。会報ありがとうございます(36s, 山本宏章)

○毎日ウォーキングに励んでいます(24w, 牧野行雄)

○いつもありがとうございます(10w, 渡部償怡致)

○「ふじ」7 次の時、大瀬さんにシャッターを修理していただいたパイロットです(海自 7 次、瀬尾仁一)

○2018 年完全退職し年金生活です。夏は鮎友釣りやっています(24w, 28w, 馬場廣明)

○93 歳になり外出は無理になりました(宗谷 6 次、後藤茂久)

○元気に楽しく過ごしています(海自 43 次、44 次、石角義成)

○加藤幸作さん、中川清隆さ

んへ、記載のメールアドレスに送信しましたが不達です。

OB 会にメールをお願いします(事務局 長谷川)

○健康から成功を目指そう(23w、飯野茂)

○名古屋支部で元気にやっています(24w, 岩坂泰信)

○元気です(39w, 草野健一郎 ; 28w, 持田幸良)

○ご苦労様です(10w, 木村征男 ; 10w, 山崎道夫 ; 宗谷 5,6 次, 内山長徳)

○防災士として、小中学校へ出前ボランティア講話を行っています。地球表面の災害現象に気象と環境も加えて話しており、南極の話もしております(23w, 阿部馨)

○6/6 いねむり運転で事故。軸椎骨折で入院しています(22w、末田達彦)

○“子猫タケシ”の逸話、面白かったです!!(38w, 53s, 東敏博)

○6 月末で全ての仕事から引退します(25s, 正富一孝)

○いつもお世話になっており、ありがとうございます。

当方元気です(宗谷 3~6 次、竹内和夫)

○相変わらず対馬ですが昭和基地より都会です(47w、増山英一)

○8 月 6~25 日高知みらい科学館で南極展を開催します(16s, 26s, 大野正夫)

○特に変化なし。腰痛でやや前かがみで歩いています(5w、川尻轟大)

○会報いつも楽しみにしています(56s、栗原陽子)

○ご無沙汰していますが元気です。お世話になっています(海自 28 次、29 次、大澤勉)

○ケアホームでおだやかに過ごしております。会話はできます。通信について発信はできません(1w、北村泰一妻初枝より)

○2019 年 4 月 18 日定年退職(海自 41~43, 47~49 次、藤高紀良)

○7 月に那覇市内の公民館で南極教室を開催、好評を得ました(40w 河原恭一)

以上

\*\*\*\*\*

南極OB会事務局 〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-3-2 牧ビル 301

電話 : 03-5210-2252 FAX : 03-5275-1635

メール : nankyoku-ob@mbp.nifty.com

郵便振込 : 加入者名 南極OB会 00110-1-428672

南極OB会ホームページ : <http://www.jare.org>

\*\*\*\*\*